

佐竹南家 御日記

第十七卷

自 寛政十年 至 享和二年

「佐竹南家日記」は、湯沢の所預であつた佐竹南家の御用座において、天和二年（一六八二）から慶応四年（一八六八）まで書き継がれた公用日記です。地方武士の暮らしや農業、商業、交通、宗教、気象などが詳細に記され、当時の社会事情を知る貴重な近世史料です。

本書は、これを活字化したもので、寛政十年（一七九八）正月から享和二年（一八〇二）十二月までの五年分を収録しました。

① 郷校の校舎が内館町に完成し、開校式が行われる。（寛政十年二月）

② 市日をこれまでの二、五、九に八の日を加えるよう代官より申し渡された。（寛政十年五月）

③ 御学館より藩内各郷校に対し、書院名を付けるよう通達があり、湯沢では九代藩主義和公直筆の御額「時習」をもって時習書院とする。（寛政十年九月）

④ 朝六ツ半頃大風が吹き、広大寺門前の大杉（木羽木にすれば一万ほど）が倒れ、周辺の木々も巻き添えとなり倒れた。半時ばかりの出来事であつた。（寛政十一年正月）

⑤ 日善寺が火事で焼失し、保寿院様（南家七代義安夫人。鷹司家諸大夫牧義広の娘）の御位牌や寄進された御門付きの御灯籠なども焼失した。（享和元年九月）

⑥ 死人がでるほどの悪性の風邪が全国的に大流行している。感染予防のため、久保田では御殿に出勤するときでも月代（さかやき）を剃らずに長髪でよいとのこと。

（享和二年四月）

⑦ 伊能忠敬が領内に入り測量を開始する。（享和二年七月）

待望の第17巻発売



既刊好評発売中

第1巻～第16巻

※第2巻は完売につき御了承ください。

頒布価格 5,000円（税込）

- ・ A5判・上製・布クロス装・函入
- ・ 本文 778 ページ ・ 出版 250 部 ・ 頒布価格 5,000 円（税込）
- ・ 付録 第17巻全文検索用 CD-ROM 1 枚
- ・ 発行 湯沢市教育委員会
- 〒012-8501 秋田県湯沢市佐竹町1番1号
- TEL 0183-55-8193・FAX 0183-72-8515
- Mail k-bunkazai@city.yuzawa.lg.jp